

つ く だ	学校だより No.10 青森市立佃小学校 令和4年12月23日発行	全校児童数464名 男子 228名 女子 236名
	◆教育目標◆ あかるく・かしく・たくましく	

♪ あかるい母校 ああ佃小学校 ♪

校長 山田 彰利

15日の音楽集会、各教室から校歌を歌う声が聞こえてきました。本来の体育館に集う形でなく各教室をリモートでつないでの音楽集会を行いました。マスク越しのまだ小さな声でしたが、佃小学校に校歌がよみがえりました。

これまで節目の式でも歌わず、スピーカーから流れる歌唱を聴くだけでした。1年生を迎える会では、毎年1年生は校歌の歌詞をプレゼントしてもらおうのですが、なかなか歌う機会がありませんでした。ひょっとして「校歌は聴くもの」と思っていないか心配でした。

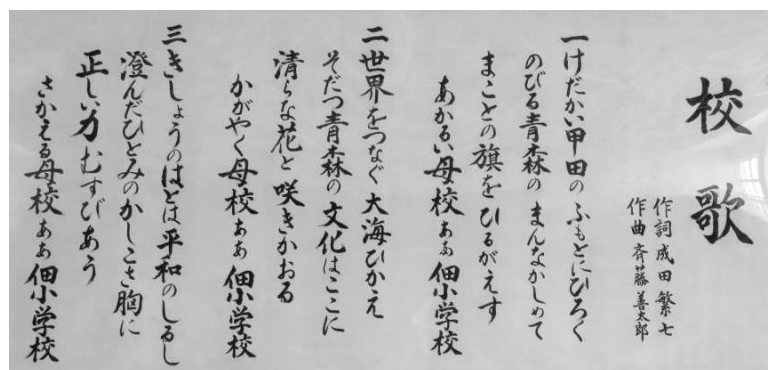
さて、本校の校歌について、市民図書館歴史資料室で毎週配信しているメールマガジン「青森歴史トリビア」の12月9日号で取り上げています。以下、引用します。

開校当初の佃小学校には校歌もありませんでした。昭和32年(開校した年です)の2学期、教頭や6年生の担任教師たちは校長の成田に対して第1回卒業生を送るためにぜひ校歌がほしいと申し出ました。教師たちが成田に作詞を依頼すると、成田は音楽主任の斎藤善太郎が作曲することを条件として依頼を受けました。そうして誕生したのが「けだかい甲田の ふもとに広く」という言葉で始まる校歌です。

作詞を手がけた成田は完成した校歌について「斎藤善太郎音楽主任の作曲の妙によって、ことばに輝きが増し、子どもたちにも父兄にも歓ばれた校歌の誕生をみた幸せは、今なお忘れられない思い出である」と語っています(成田繁七「新北の文脈34」『北の街』第25巻第8号、1986年)。

右は校歌の歌詞です。「世界をつなぐ大海」「きしょうの鳩」は、校章のモチーフにもなっています。

子供たちにとって、いつまでも「あかるい母校」「かがやく母校」であり続けるために、これからも職員一同、子供たちの「澄んだひとみのかしこさ」を大切に育てて参ります。



令和4年が終わりに近付き、冬休みへと向かいます。今年もコロナ禍の下、様々な制約の中での教育活動でした。保護者の皆様にもご不便をおかけすることも多々ありました。ご理解とご協力で改めて感謝申し上げます。そして、冬休み期間中は、マチコミでもお願いしましたが、子供たちの様子を温かく見守り、ご心配なことがありましたら、小さなことでもご相談くださるようお願いいたします。では、よいお年をお迎えください。